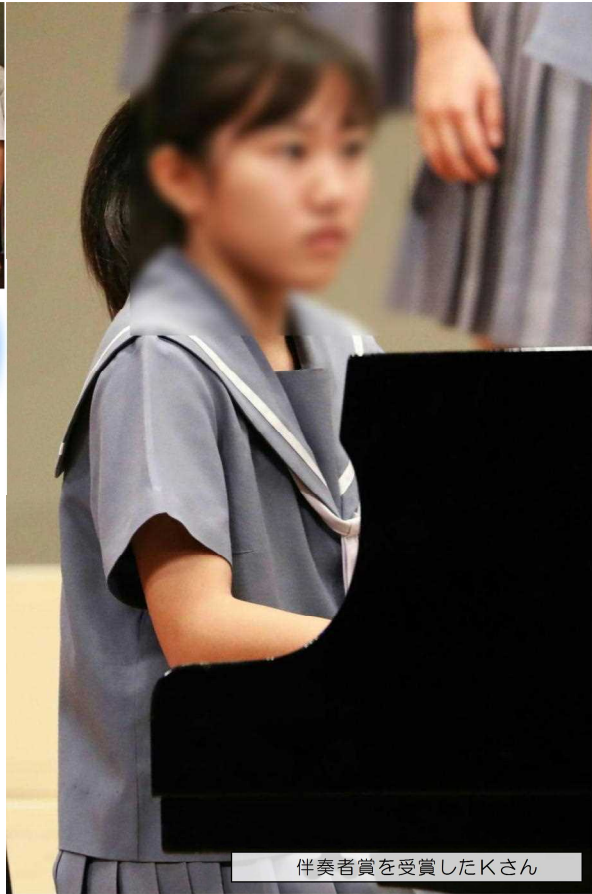




最初にまず校歌から



獅子舞とのコラボで最高の笑顔



伴奏者賞を受賞したKさん

清流大川

羽地中学校
学校だより 115号
せいりゅうおおかわ
H30.10.29

10月29日(金)は、羽地中にとつて感動の舞台発表の日であった。各護市民会館に会場を移して2年目、初めての平日開催にも関わらず、多くの保護者や祖父祖母の皆さん、地域の方々が参観に来てくれた合唱コンクールでした。

合唱にふさわしいピアノや反響板、音響施設等が整い、スタッフも常駐している市民会館大ホールは、合唱のみならず、ミュージカルや舞台表現などで最高のパフォーマンスを発揮できる場であり、表現の喜びや技法を学ぶのに最高の場所である。この大ホールが改築にならない限り、今後もこの会場で合唱コンクールが開かれることを切に願います。中学生の表現は無限のだから。

全校生徒・職員・保護者による校歌斉唱の後、職員による合唱「夢の世界を」は、合唱への勢いを付けられ激励できたと感じます。できれば卒業式には「旅立ちの日」か「あなたへ、旅立ちに寄せるメッセージ」を送りたいものです。

一年生はどの学級も初めての行事でしたが、持ち前の明るさとやる気で練習に取り組んでいました。男子が変声期にあたるこの時期は、一日で声質が変わる変動の一年です。

課題曲「朝の風に」は、元気に声を出して歌える爽やかな曲です。兎に角、声を出す。声を出すためにはお腹いっぱい息を吸う。お腹いっぱい息を吸うためには姿勢を良くする。そして、気持ちをつくる。みんなので気持を合わせる、ことです。

一年生は見事に元気がいいに歌ってくれました。中でも、1年2組さんは自由曲「地球星歌」の選曲も良かったが、担任の敬太先生と共に創り上げた合唱でした。

「あなたの毎日が世界を創り、愛する思いが地球へと広がる。私は祈る。明日のために、まだ見ぬあなたの笑顔のために」のフレーズは涙が出たのは、変声期直前直後の男子が少なかつたかもと一人の審査員が語っていました。男女の声のバランスが良く、1年生以上のハーモニーに仕上がっていたとこのことで好評でした。

一組、三組は銀賞でしたが、指揮者賞と伴奏者賞をだす



健闘ぶりでした。「怪獣のバラード」は懐かしい曲でした。課題曲、自由曲とも元氣のある曲なのが少し気になりましたが、気持ちよく楽しんで歌いきったと思います。

「笑顔をわすれてしまった君にはメッセージ性のある合唱です。優しく入り、徐々に力強く歌い上げるとなお良かったかも。ダダダダからリスミカルに。人生は経験ですね。1年後、2年後の成長が楽しみですな学年、学級の合唱でした。(つづく)